

C F C 教科別シラバス

教科名：カラーコーディネート論Ⅰ ファッション学科1年 35時間/週 1時間

授業の解説（担当はアパレル企業での実務経験者）

色彩に関する基礎知識を AFT 色彩検定 3 級対策テキストに沿って講義する。

色彩調和の学習では基本的な配色テクニックを学んだ後、カラーカードを使用し実際に配色実習を行なう。

2 級・1 級を学ぶ時ときの重要な基礎となるので、しっかり覚えてもらうためにスモールテストを随時行なう。

評価基準

出席日数、授業態度、演習課題、定期試験により総合的に評価する。

使用テキスト

『文部科学省後援 色彩検定 対策テキスト 3 級編』全国服飾教育者連合会（A・F・T）

参考文献

『分かる色彩検定 3 級』新星出版

カリキュラム・スケジュールの概略

- ・色の三属性と色立体
- ・PCCS
- ・カラーチャート実習（PCCS 色相環・トーン表）
- ・マンセル
- ・色名…系統色名、慣用色名
- ・光と色
- ・眼のしくみ
- ・照明
- ・混色
- ・色彩心理（心理的効果、対比、同化）
- ・色彩調和…カラーカードを使用して配色実習

- ・配色イメージ

- ・UC 級インフォメーション

C F C 教科別シラバス

教科名：カラーコーディネート論Ⅱ ファッション学科 2 年 35 時間/週 1 時間

授業の解説（担当はアパレル企業での実務経験者）

3 級で学んだ基本知識を踏まえ、新たなカラーの知識を AFT 色彩検定 3 級対策テキストに沿って講義する。

新しい表色系の授業では、3 級で学んだ内容との違いを復習を兼ねながら進めていく。

色彩調和の学習では、カラーカードで実際に配色を作ることで理解を深める。

評価基準

出席日数、授業態度、演習課題、定期試験の結果を総合的に評価する。

使用テキスト

『文部科学省後援 色彩検定 対策テキスト 2 級編』全国服飾教育者連合会（A・F・T）

カリキュラム・スケジュールの概略

- ・生活と色 誘目性 視認性
 - ・色の表示 マンセルシステム
 - ・光と色 分光分布、視覚系、照明
 - ・プロダクトデザインと色彩
 - ・色彩調和・・・カラーカードを使用して配色実習
 - ・配色イメージ ファッション、
 - ・インテリアデザインと色彩
 - ・エクステリア環境
 - ・ヴィジュアルデザインと色彩
 - ・プロダクトデザインと色彩
 - ・色名について
 - *検定向けテストの実施
 - ・パーソナルカラー
 - 診断法、応用テクニック、ファッションコーディネート、メイク
- 学年末単位認定試験

C F C 教科別シラバス

教科名：パソコン演習 ファッション学科 1 年 35 時間/週 1 時間

授業の解説

コンピューターグラフィックスの基本原理を習得し、その技術を適切に利用できるようになることを目指し、Illustrator・Photoshop を使いこなすための機能を、実践を交えて進めていく。

使用テキスト

機能ごとのオリジナルプリント

使用ソフト

Illustrator C C ・Photoshop C C

カリキュラム・スケジュールの概略

——前期 (PhotoShop) ——

1. パス
2. 選択範囲
3. 着色設定
4. テキスト入力
5. 印刷方法

PhotoShop を使用してヴィジュアルマップを制作する。

——後期 (Illustrator) ——

1. パス
2. 線
3. 着色設定
4. テキスト入力

ハンガーイラストを制作する。

C F C 教科別シラバス

教科名：パソコン演習 ファッション学科 2 年 35 時間/週 1 時間

授業の解説

コンピューターグラフィックスの基本原理を習得し、その技術を適切に利用できるようになることを目指し、Illustrator・Photoshop を使いこなすための機能を、実践を交えて進めていく。

使用テキスト

機能ごとのオリジナルプリント

使用ソフト

Illustrator C C ・Photoshop C C

カリキュラム・スケジュールの概略

——前期 (PhotoShop) ——

1. パス
2. 選択範囲
3. 着色設定
4. テキスト入力
5. 印刷方法

PhotoShop を使用してアパレル企業でのヴィジュアルマップを制作する。

——後期 (Illustrator) ——

1. パス
2. 線
3. 着色設定
4. テキスト入力

アパレル企業でのハンガーイラストを制作する。

C F C 教科別シラバス

教科名：パターンメイキングⅡ ファッション学科2年 105 時間/週 3 時間 (選択 210 時間/週 6 時間)	
<u>授業の解説</u> (担当はアパレル企業での実務経験者) ・人体の構造や動作に適合するパターンの展開方法を理論的に順序良く学習し、その上で、デザインと調和する感性豊かなパターン表現を身につけていく。 ・2年次の授業内容 ①新文化原型を用いたパターンメイキング…「実用編」 ジャケットのパターンメイキング…6～7 デザイン ②パンツのパターンメイキング…その1 パンツ原型の作図とその応用 ③各種見頃続き袖のパターンメイキング ④デザインディテールのバリエーション	
<u>評価基準</u> 出席率、授業態度、課題提出物（デザイン、素材選びなども含む）により総合的に評価する。	
<u>使用テキスト</u> すべてオリジナルテキスト（プリント） <u>参考文献</u> 『スカート・パンツ』 『コート・ケープ』 『スーツ・ベスト』 } 文化ファッション大系 文化服装学院編	
<u>カリキュラム・スケジュールの概略</u> ・パンツのパターンメイキング ①パンツ原型の作図 ②テーパードレグシルエットのパターンメイキング ③シェプドレグシルエットのパターンメイキング ④デザインパンツ（例：ベルボトムパンツ）のパターンメイキング ・ジャケットのパターンメイキング ①4面構成ジャケット：プリンセスラインシルエット ②パネルラインジャケット ③補助ダーツのあるパネルラインジャケット ④ディテール表現 前身頃ショルダーダーツの展開方法 ジャケット用ポケット各種 など。 ⑤3面構成テーラードジャケット ⑥ ⑤の応用：メンズライクなカッティングのジャケット ⑦ダブルブレスジャケット ⑧ディテールの表現 衿、袖、フロントカットのバリエーション など。 ・身頃続き袖 各種 ①フレンチスリーブ ②きものスリーブ ③脇パネルまち ④ケープ&フード ⑥ラグランスリーブ（文化教本コート・ケープより） ・デザイン袖のいろいろ：袖山に変化のある袖…レグオブマトンスリーブ など ・トレンド性を考慮し、《今のシルエット》を見る力を養う。 ①ワンピース A ②ワンピース B ③スカート A ④スカート B	

C F C 教科別シラバス

教科名：パターンメイキングⅠ ファッション学科1年 105時間/週 3時間
<u>授業の解説</u>（担当はアパレル企業での実務経験者） パターンメイキングの基礎知識を学ぶ。 ファーストパターンと工業用パターンの違いを理解させ工業用パターン作製の手順を で理解させる。(1/2 縮尺)
<u>評価基準</u> 出席率、授業態度、定期試験により総合的に評価する。
<u>使用テキスト</u> 『パターンメイキング技術検定試験 3 級ガイドブック』 財団法人日本ファッション教育振興協会 『服飾造形の基礎』 文化ファッション大系 文化服装学院編
<u>カリキュラム・スケジュールの概略</u> ——前期—— ・パターンメイキングとは ・スカート原型の作図 ・身頃原型の作図 ・袖の作図 ・ダーツの移動、分散 ・衿の各種デザインの作図 ・スカート原型からの展開 セミタイト・Aライン・ゴアード・フレアー等 ・ワンピースの作図 ・ブラウスの作図（シャツカラー） ——後期—— ・パンツの作図 ・ブラウスの作図（オープンカラー） ・ジャケットの作図（テーラードカラー・二枚袖） ・袖の展開

C F C 教科別シラバス

教科名：ファッションデザイン画Ⅰ ファッション学科1年 70 時間/週 2 時間

授業の解説（担当はアパレル企業での実務経験者）

ファッションを生み出すとき、その表現法として必要なデザイン画、基本的なプロポーションのとり方、顔の表現、ポーズのつけ方から学ぶ。ハンガーイラスト、アイテム、ディテール名称も交え、着装・着色が出来ることを目標とする。

評価基準

出席率、授業態度、テーマ毎に提出する作品の完成度により総合的に評価する。

使用テキスト

「ファッションデザイン画」 文化ファッション大系 文化服装学院編

カリキュラム・スケジュールの概略

- ・プロポーションのとり方
- ・ポーズのとり方
- ・顔の描き方＜提出課題 ①＞
- ・ハンガーイラスト（アイテム図）の描き方
- ・着装の方法
- ・絵具着色技法・ペン入れ＜提出課題 ②～④＞
- ・夏休み宿題＜提出課題 ⑤＞
- ・写真を使った練習（写真デッサン）＜提出課題 ⑥＞
- ・素材感の表現法＜提出課題 ⑦～⑨＞
- ・メンズの描き方
- ・学年末単位認定試験

C F C 教科別シラバス

教科名：ファッションデザイン画Ⅱ ファッション学科2年 70 時間/週 2 時間 (選択 105 時間/週 3 時間)
<u>授業の解説</u> (担当はアパレル企業での実務経験者) ・オリジナリティーのある発想，表現方法ができるようサンプルなどを見せて解説する。 ・バランス，色など写真スケッチなどで見る力を養う。
<u>評価基準</u> 課題がオリジナリティーのある発想，表現方法であるか、市場を意識したデザインであるか総合的に判断する。
<u>使用テキスト</u> 『ファッションデザイン画』文化ファッション大系 文化服装学院編
<u>カリキュラム・スケジュールの概略</u> ——前期—— <コンテスト対策> ・デザイン出しの方法 ・表現方法の研究 <基礎> ・ポーズのとり方 ・ハンガーイラスト ・ディティール，素材表現 ——後期—— <コンテスト対策> ・より多くのデザイン出しとデザインのまとめ方 ・効果的な表現方法（くずし絵） <基礎> ・市場を意識したデザイン出しからの着色作品 ・ディティール，素材表現 ※基礎 TOTAL ファイルNo.1～19

C F C 教科別シラバス

教科名：ファッションビジネス論Ⅰ ファッション学科1年 70 時間/週 2 時間

授業の解説（担当はアパレル企業での実務経験者）

素材・合繊メーカーなどの川上といわれる産業から、服を企画・生産・販売する川中と称されるアパレル産業、そして百貨店・専門店・量販店・小売店などの流通分野の川下まで、高度で広範囲な分野・領域の理解、またその能力を社会や、企業で活用・活躍することを目標とする。

評価基準

出席率、授業態度、定期試験により総合的に評価する。

使用テキスト

『ファッションビジネス能力検定試験 3 級ガイドブック』

財団法人日本ファッション教育振興協会

カリキュラム・スケジュールの概略

——前期——

ファッションビジネス

- ・ 60～90年代ファッションビジネスの変遷
- ・ 90年代ファッションビジネス
- ・ ファッションビジネスの定義・特性
- ・ ファッションビジネスの構成メンバー

ファッション産業構造

- ・ 繊維ファッション産業の構造
- ・ アパレル企業の業態
- ・ アパレル小売業の業態

ファッションマーチャンダイジング

- ・ マーチャンダイジングの基礎知識
- ・ ファッション資料の知識
- ・ 売場商品構成の基礎

——後期——

ファッション流通

- ・ 流通
- ・ ファッション小売業の業務

ファッション販売

- ・ コミュニケーションの基本
- ・ 販売の基本マナー
- ・ 接客技術
- ・ 顧客づくり・ファンづくり

キャリアプラン

- ・ 自己啓発
- ・ ファッションアドバイザー（FA）

ビジネス基礎知識

- ・ 社会常識Ⅰ
- ・ 企業と組織Ⅰ
- ・ ビジネス文書
- ・ 計数知識Ⅰ

C F C 教科別シラバス

教科名：ファッションビジネス論Ⅱ ファッション学科 2 年 70 時間/週 2 時間

授業の解説（担当はアパレル企業での実務経験者）

ファッションの商品企画、生産から流通にわたるビジネスの世界で活躍する際に必要なファッション専門知識を理解する。
現在の、ファッションビジネス界の動向。

評価基準

『ファッションビジネス能力検定試験』2 級の合格が基本。
出席率、授業態度、定期試験により総合的に評価する。

使用テキスト

『ファッションビジネス能力検定試験 2 級ガイドブック』

財団法人日本ファッション教育振興協会

『WWD ジャパン』

『繊研新聞』

カリキュラム・スケジュールの概略

—ファッションビジネス知識—

1. ファッションビジネスの特性
2. ファッション生活・ファッション消費
3. ファッション産業構造
4. ファッションマーケティング
5. ファッションマーチャンダイジング
6. アパレル生産と物流
7. ファッション流通
8. 販売管理とプロモーション
9. キャリアプラン
10. ビジネス基礎知識

C F C 教科別シラバス

教科名：ファッションマーケティング論 ファッション学科1年 35 時間/週 1 時間

授業の解説（担当はアパレル企業での実務経験者）

ファッションマーケティングの基本を講義と演習により習得。
オリジナル商品を企画立案し、企画書作成から、商品製作、プレゼンテーションまでの一貫した流れの中で習得、理解する。

評価基準

出席率、授業態度、課題提出物、定期試験により総合的に評価する。

使用テキスト

『ファッションマーケティング』 ファッション教育社
『ファッションビジネス能力検定試験 3 級ガイドブック』
財団法人日本ファッション教育振興協会

参考文献 ファッションニュース・ファッション雑誌

カリキュラム・スケジュールの概略

——前期——

- ・ファッションマーケティングの定義
- ・ファッション業界の職種説明
- ・ワードローブプラン
- ・消費者行動
- ・ファッション生活空間
- ・ファッションとライフスタイル
- ・トレンド感性
- ・ライフスタイル変化
- ・A/Wトレンド分析

——後期——

- ・マーケティングの基礎知識
- ・市場調査の基礎知識
- ・百貨店市場調査
- ・ターゲットイメージ企画
- ・ターゲット分析
- ・ブランドイメージ企画
- ・シーズンイメージ企画
- ・アイテム企画
- ・プレゼンテーション

C F C 教科別シラバス

教科名：マーチャンダイジング ファッション学科2年 70 時間/週 2 時間

授業の解説（担当はアパレル企業での実務経験者）

ファッションマーケティングを踏まえ、マーケットリサーチ・雑誌分析を行い、オリジナルブランドの立ち上げのための知識技術を習得し、プレゼンテーション能力を身に付ける。

評価基準

出席率・授業態度・課題提出物・プレゼンテーション能力により総合的に評価する。

使用テキスト

『ファッションニュース』(株)インファスパブリケーションズ

参考文献

『アパレルマーチャンダイジング』ファッション教育社

『ファッションマーケティング』 〃

カリキュラム・スケジュールの概略

- ・マーチャンダイジングの仕事内容について プロセスの説明・情報の分類と収集
- ・商品ブランドイメージマップ
- ・ターゲット企画
- ・ターゲット分析
- ・ブランドタグ・ショッピングバック企画
- ・A/Wトレンド分析
- ・S/Sトレンドテーマ
- 商品・素材
 - アイテム展開企画
 - DM・ネーム・バッグ
 - コーディネートプラン
 - プレゼンテーション
- ・A/Wトレンドテーマ
- 商品・素材
 - アイテム展開企画
 - コーディネートプラン
 - プレゼンテーション
- ・S/Sトレンド分析

C F C 教科別シラバス

教科名：構成講義Ⅰ ファッション学科 1 年 35 時間/週 1 時間

授業の解説（担当はアパレル企業での実務経験者）

被服作製の為の基礎知識、製作技術を理論的に学ぶ。

既製服の商品知識・生産流通過程を学び効率的かつ正確なものの作りの知識を得る。

評価基準

出席率、授業態度、課題提出物、定期試験により総合的に評価する。

使用テキスト

『服飾造形の基礎』
『スカート・パンツ』
『ブラウス・ワンピース』
『ジャケット・ベスト』
『帽子』『刺繍』

文化ファッション大系 文化服装学院編

『接着芯の本』文化出版局

『ファッションビジネス能力検定試験 3 級ガイドブック』

財団法人日本ファッション教育振興協会

カリキュラム・スケジュールの概略

——前期——

服飾造形概説

衣服製作の為の用具

人体計測

基礎縫い

衣服製作の為の基礎知識

スカート原型の仮縫い・補正

身頃原型の仮縫い・補正

スカート・ブラウス製作手順（R T W）

素材・シルエット・ディテール

商品知識・サイズの知識

ワンピース製作手順（R T W）

——後期——

パンツ製作手順（R T W）

ベルト通し・ベルト付け・本股明き

刺繍

テーラードジャケット（裏無し）製作手順（R T W）

パッチポケット

二枚袖・明きみせ

肩パッドの付け方

ジャケットにおけるアイロン工程

帽子

アパレルメーカー商品生産知識

工場生産・流通知識

スカート（裏つき）

C F C 教科別シラバス

教科名：構成講義Ⅱ

ファッション学科 2 年

35 時間/週 1 時間

授業の解説（担当はアパレル企業での実務経験者）

洋服の構造を理解し、専門的な知識と技術を習得し、それぞれの基本的な服種（アイテム）の「服作り」を通して服飾全般の知識と応用を学び、製作工程を把握する。

評価基準

出席率、授業態度、定期試験により総合的に評価する。

使用テキスト

『スカート・パンツ』

『コート・ケープ』

『スーツ・ベスト』

『特殊素材』

文化ファッション大系 文化服装学院編

カリキュラム・スケジュールの概略

・ラグラン仕様について

商品知識、仕立てによる名称、比翼仕立て、略比翼仕立て、ふらせ仕立て、半裏仕立て、背ぬき仕立て

・柄合せについて

柄の知識、大柄、花柄、ストライプ、ボーダー、格子の柄合せ

・ジャケットについて

総裏仕立て、2 枚袖、ポケット

・パンツについて

総裏仕立て、持ち出し付きファスナーあき、シームポケット

・フォーマルについて

商品知識

・シャーリング、プリーツ、スリットについて

・子供服

体型

・ファーについて

・ジャージ素材について

C F C 教科別シラバス

教科名：構成実習Ⅰ ファッション学科 1 年 420 時間/週 12 時間
<u>授業の解説</u>（担当はアパレル企業での実務経験者） 被服製作の為の基礎知識、製作技術を学ぶ。 （実寸パターン・縫製）
<u>評価基準</u> 出席率、授業態度、課題提出物により総合的に評価する。
<u>使用テキスト</u> 『服飾造形の基礎』 『スカート・パンツ』 『ブラウス・ワンピース』 『ジャケット・ベスト』 『接着芯の本』 文化出版局 } 文化ファッション大系 文化服装学院編
<u>カリキュラム・スケジュールの概略</u> ——前期—— ・ 定規袋（パターン・縫製） ・ ギャザースカート（パターン・縫製）・デザインスカート（経験者クラスのみ） ・ 身頃原型補正（パターン・仮縫い） ・ 基礎縫い ・ 部分縫い（カギ明き・コの字明き・縫い目明き・シャーリング・折伏せ縫い・袋縫い etc） ・ 規定ワンピース（パターン・縫製） ・ 長袖規定ブラウス（パターン・縫製） ・ デザインブラウス（パターン・縫製）（経験者クラスのみ） ——後期—— ・ パンツ（ベルト通し、ポケットベルト付け、本股明き）（パターン・縫製） ・ 部分縫い（シャーリング、etc） ・ テーラードジャケット（裏無し・肩パッド有・二枚袖・袖口明き見せ・肩パットのくるみ） （パターン・縫製） ・ 帽子 ・ C F C ファッションコンテスト作品（パターン・縫製） ・ 部分縫い（釦ホール・テープを使った始末） ・ スカート（裏付き、後ろファスナーベンツ明き（パターン・縫製）） ・ 修了作品（パターン・縫製）

C F C 教科別シラバス

教科名：構成実習Ⅱ ファッション学科 2 年 175 時間/週 5 時間

授業の解説（担当はアパレル企業での実務経験者）

リサーチを通じて集めた情報を整理・分析し、テーマに基づきデザインした作品を原型から作図・シルエット点検・縫製し、ファイリングして提出する。

情報分析にはマーチャンダイジング担当教員、講義内容は講義担当教員に一任する。

また、パターンを作図すると同時に、C A D にて同じ作図を書く。

現在のアパレルのスピードと完成度により近づける基礎知識を増やす。

評価基準

出席率・課題提出率・プレゼンテーション・授業態度を加味し、
課題提出物の出来具合を 50 パーセントの評価内容として総合的に評価する。

使用テキスト

『スカート・パンツ』	}	文化ファッション大系 文化服装学院編
『コート・ケープ』		
『スーツ・ベスト』		
『特殊素材』		

カリキュラム・スケジュールの概略

——前期——

- ・ジャケット
- ・ワンピース (ブラックドレス)
- ・ジャージー素材の作品

——後期——

- ・パンツ
- ・パニエ (1/2)
- ・子供服

いずれも原型より作図 → トワルチェック → 工業用パターン作図 → 縫製 →
ファイリングの流れで製作させる

- ・C F C ファッションコンテスト作品

- ・卒業作品

いずれも原型より作図 → トワルチェック → 工業用パターン作図 → 縫製 →
ファイリングの流れで製作させる

＊ 前期・後期で 1 型ずつ C A D にてパターンを作図し、アパレルの流れを確認する。

C F C 教科別シラバス

教科名：職業指導Ⅱ ファッション学科２年 35 時間/週 1 時間

授業の解説

1 年生で行った自己分析のレベルアップを行い、仕事に対する、より具体的な適性を確認。
企業研究をあらゆる角度から行い、企業選択と同時に、企業へのアプローチのスケジュール、
テクニックを指導する。

使用テキスト

『専門学校生のための就職内定教科書』日本能率協会マネジメントセンター

参考文献

繊研新聞、WWD、他、業界情報紙

カリキュラム・スケジュールの概略

1. 就職活動のスケジュール
2. 自己分析
3. 自己分析から自己PRへ
4. 企業研究
5. 企業とのマッチングについて
6. 各種セミナー（企業ガイダンス、卒業生ガイダンス、マイナビセミナー等）
7. 個別カウンセリング
8. インターンシップ

C F C 教科別シラバス

教科名：西洋服装史Ⅰ ファッション学科1年 35 時間/週 1 時間

授業の解説

人類が衣服をまとうようになった古代メソポタミアから19世紀末までの時代的背景とファッションとの関連について学ぶ、プロジェクターやビデオ等を使用しながら各時代のファッションを理解する。

評価基準

出席率、授業態度、定期試験により評価する。

使用テキスト

『ファッションビジネス能力検定試験3級ガイドブック』

財団法人日本ファッション教育振興協会

『服飾造形の基礎』 文化ファッション大系 文化服装学院編

カリキュラム・スケジュールの概略

- ・西洋服装史を学ぶ意義
- ・古代メソポタミア：シュメールのカウナケス、ペルシャのチュニック、ズボンについて説明
- ・古代エジプト：ロインクロス、パーニュ、チュニック、カラシリスなどについて説明
- ・古代ギリシア：ドーリア式・イオニア式キトン、ヒマティオンなどについて説明
- ・古代ローマ：ストラとパルラ、トゥニカとトーガ、時代の盛衰と衣服の分量との関係について説明
- ・ビザンティン：ダルマティカ、パルダメントウムなどについて説明
- ・ロマネスク：シェーンズ、ブリオー、マントルなどについて説明
- ・ゴシック：コットとシュールコ、プールポワンとショースとプーレーヌ、ウブランド
コタルディとシュールコトウベール、エナン帽とローブなどについて説明
- ・ルネサンス：イタリアモード、スペインモード、フランスモード、イギリスモードなどについて説明 史上初めての腰枠ヴェルチュガダン登場
- ・バロック：オランダモード、ルイ14世時代のフランス宮廷モードなどについて説明
- ・ロココ：ルイ15世、ルイ16世時代のフランス宮廷モードなどについて説明
史上2番目の腰枠パニエ登場
- ・執政政府：アंकローワイヤブル・メルヴェイユーズといった風変わりなファッションをした男女の服装などについて説明
- ・第一帝政：ナポレオン一世の時代、ジョセフィーヌを中心に華麗な宮廷モード(ローブ・ド・クール、エンパイア・ドレスなど)について説明
- ・王政復古：ルイ18世の時代、女子服のウエストはコルセットで再び細くなる。男子服はダンディズムを確立したジョージ・ブライアン・ブリュンメルのダンディについて説明
- ・第二帝政：ナポレオン3世の皇妃ウージェニーのファッションに携わったオートクチュールの創始者シャルル・フレドリック・ウォルトについて説明
史上3番目の腰枠クリノリン登場
今日の背広服の原型が築かれた
- ・世紀末：史上4番目の腰枠バッスル登場 日本において鹿鳴館スタイルともいわれる子供らしい子供服が誕生

C F C 教科別シラバス

教科名：西洋服装史Ⅱ ファッション学科2年 35 時間/週 1 時間
<u>授業の解説</u> 20 世紀ファッションを時代的背景やその時代に活躍したデザイナーの功績を考察しながらプロジェクトやDVD、ヴィンテージ作品等を使用しながら、近代モード史を講義する。
<u>評価基準</u> 出席率、授業態度、定期試験により総合的に評価する。
<u>使用テキスト</u> 『20 世紀ファッション』文化ファッション大系 文化服装学院編 『ファッションビジネスⅡ』財団法人日本ファッション教育振興協会
<u>カリキュラム・スケジュールの概略</u> ・モード史を学ぶ意義 ・1900年代 ーアール・ヌーボースタイルー ポール・ポワレを中心として ・ベルエポック時代 ー1910年代ー 美しき良き時代 ・20年代 ーギャルソンヌ・スタイルー 女性デザイナー3人（シャネル・ヴィオネ・スキャパレリ）を中心として ・30年代 ースリム&ロングスタイルー ・40年代 ーミリタリースタイルー ニュールックを発表したクリスチャン・ディオール／イヴ・サンローランを中心として ・50年代 ーオートクチュール黄金期ー クリストバル・バレンシアガ／ユーヴェルト・ジバンシーを中心として ・60年代 ーミニスカートとプレタポルテーー マリー・クワント／アンドレ・クレージュ／ピエール・カルダンを中心として ・70年代 ーフォークロア&ヒッピーファッションー 日本人デザイナー高田賢三・三宅一生を中心として ・80年代 ーボディコンシャスとD. C. ブランドー ティリー・ミュグレ／クロード・モンタナ／アズディン・アライア、川久保玲・山本耀司等を中心として ・90年代 ーストリートファッションー

C F C 教科別シラバス

教科名：素材論Ⅰ ファッション学科 1 年 35 時間/週 1 時間

授業の解説（担当はアパレル企業での実務経験者）

ガーメントを構成する大きな要素の 1 つである素材。ファッション業界を志す学生たちに欠かすことの出来ない素材の基本的な知識の習得を目指す。

ファッション学科の授業では、商品の製造視点に立って講義を進めます。
ファッション流通学科の授業では、消費者の視点に立って講義を進めます。

評価基準

出席率、授業態度、定期試験により総合的に評価する。

使用テキスト

『知りたかった繊維の話』 株式会社東レ経営研究所
『テキスタイルハンドブック』 文化学園文化事業局

カリキュラム・スケジュールの概略

1. 繊維原料について
 - ・天然繊維
 - ・化学繊維
2. 糸について
 - ・糸の長短
 - ・糸の太さ、撚り
 - ・紡績糸、加工糸
3. 織物について
 - ・織物の構造
 - ・三原組織
4. 産地研修（尾州産地を予定）

C F C 教科別シラバス

教科名：素材論Ⅱ ファッション学科 2 年 70 時間/週 2 時間

授業の解説（担当はアパレル企業での実務経験者）

1 年生に引き続き基礎編のまとめを行う。

但し、2 年生では理論と実践の同時進行が最大のテーマ。

素材学としての理論的基礎を徹底しつつ、常に多数の素材に触れることで、衣服と素材との関係を確認。

更に、最新の素材、業界でおこっている新しい素材分野の定義（ルール）を紹介することで、即戦力としての素材学を身につける。

評価基準

出席率、授業態度、定期テストにより総合的に評価する。

使用テキスト

『知りたかった繊維の話』 株式会社東レ経営研究所

『テキスタイルハンドブック』 文化学園文化事業局

その他プリント、多数の素材サンプル、ハンガー、製品サンプルを使用

カリキュラム・スケジュールの概略

1. 織物について

綿、毛、絹の素材名

2. ニットについて

成形商品とカットソー

編み地について

ジャージーの素材名

3. その他の素材（レース、不織布等）

4. 素材の染色について

5. 素材の仕上げ加工 について

6. 素材の産地と流通について

7. 素材のトレンドについて

8. 産地研修（北陸産地を予定）

C F C 教科別シラバス

教科名：創作デザイン画Ⅰ ファッション学科1年 70 時間/週 2 時間

授業の解説（担当はアパレル企業での実務経験者）

ファッションデザインの発想と表現方法などに関する知識と技術を習得させ
ファッションを想像的にデザインする能力を身に付ける。

評価基準

出席率、授業態度、提出課題により総合的に評価する。

使用テキスト

参考文献：FASHION DESIGN BASICS
FASHION DESIGN RESOURCE

カリキュラム・スケジュールの概略

- ・デザイン発想 1（平面：線の視覚効果）
線の視覚的効果を学習した上で直線や曲線を使ってデザイン発想をし、
イメージを具体化する過程を理解する。
- ・デザイン発想 2（立体：紙）
想像的に作り出した紙の立体物から発想を得て、イメージを具体化する
過程を演習し、ファッション画によって表現する。
- ・モードデッサン
モード写真を基に写實的にデッサンする技術を習得する。
- ・デザイン発想 3（平面構成：ミックス）
シルエット、ディテールとアイテムの形態について理解し、固定概念に
とらわれないイメージの具体化を学ぶ。
- ・デザイン発想 4（テーマ 自然）
テーマに沿ったリサーチを基にマップを製作し、そこからデザイン出しの
作業を経てデザイン画に表現する過程を理解し、実践的に取り組む。
- ・C F C ポートフォリオ
テーマから各自リサーチを行いイメージマップを製作。
その後、各グループでポートフォリオ製作する。

C F C 教科別シラバス

教科名：創作デザイン画Ⅱ ファッション学科 2 年 （選択 105 時間/週 3 時間）

授業の解説（担当はアパレル企業での実務経験者）

- ・ファッションデザインをする上でのアイディアの発想方法、リサーチの意味、デザインを発展させていく方法を学ぶ。

評価基準

出席率、授業態度、提出課題・コラージュマップ（構成力・発想生）・デザイン力の完成度により総合的に評価する。

使用テキスト

参考文献：ファッションデザイン・リサーチ

FASHION DESIGN BASICS

FASHION DESIGN RESOURCE

カリキュラム・スケジュールの概略

- ・外部コンテストの為のアイディア出しとリサーチ・発展
- ・フォルムプレゼンテーション
- ・テーマごとにリサーチからプレゼンまで
 - 円
 - オリジナルモチーフ
 - 8つの感性のジャケット
- ・プチ Lab（月 1 回）の補助
 - リサーチ
 - デザイン出し
 - 作品製作

C F C 教科別シラバス

教科名：立体裁断Ⅰ ファッション学科 1 年 105 時間/週 3 時間

授業の解説（担当はアパレル企業での実務経験者）

立体裁断は、よいパターンを作ることが究極の目的である。

正しく布目を読み取る視覚の重要性を認識させた上で、一枚の布を適切に扱って基本のシルエットを表現出来るようにする。

評価基準

- ・ 基礎的な部分（ピンの打ち方、地の目線の直し方、トワルの扱い方）が習得出来ているか。
 - ・ 適切な方法で決められたシルエットになっているか。
 - ・ 出席日数、授業態度、定期試験
- 以上を総合的に評価する。

使用テキスト

『立体裁断 基礎編』 文化ファッション大系 文化服装学院編

『プリント』 立体裁断研究書「パターンメイキングの原理」大野順之助著

カリキュラム・スケジュールの概略

——前期——

- ・ 立体裁断について
- ・ ボディ、ピンの打ち方、地の目直しの説明
- ・ ストレートスカート（ドレーピング、ドラフティング）
- ・ Aラインスカート（ドレーピング、ドラフティング）
- ・ フレアースカート（ドレーピング）

——後期——

- ・ 身頃原型（タイトシルエット、ドレーピング、ドラフティング）
- ・ 身頃原型利用してダーツ移動、タック、ギャザーに展開
- ・ オーバーブラウス（ドレーピング、ドラフティング） 衿つけ
- ・ 学年末試験として、オーバーブラウスを規定時間内に組み上げる。

C F C 教科別シラバス

教科名：立体裁断Ⅱ ファッション学科 2 年 105 時間/週 3 時間
<u>授業の解説</u>（担当はアパレル企業での実務経験者） 1 年の題材を基礎とし、各種アイテム、及びディテールを立体裁断にて表現し、ファーストパターンを作成する。
<u>評価基準</u> ・デザイン画に対し適正なシルエットに組み立てられているか。 ・地の目、ピン打ちが的確に扱われているか。 ・出席日数、授業態度、定期試験 以上を総合的に評価する。
<u>参考文献</u> 『立体裁断 基礎編』 『デザイン画』 } 文化ファッション大系 文化服装学院編 『パターンメイキングの原理』 大野順之助著 『近藤れん子の立体裁断と基礎知識』 モードエモード社
<u>カリキュラム・スケジュールの概略</u> ・タックインブラウス（フラットカラー） ・オーバーブラウス（パターンメイキング 3 級より 2 型） ・デザインワンピース ・ブラウス又はワンピース（前期単位認定試験） ・プリンセスラインの原型 ・ボックスシルエットのジャケット ・ショールカラーのプリンセスラインのジャケット ・テーラードカラーのジャケット（パネルライン・2 枚袖） ・ヨーク切替えのタックスカート又はボックスプリーツ ・オリジナルデザインワンピース ・学年末単位認定試験